

ミドルリーダーによる経験学習モデルを活用した校内研修に関する研究

— 研究主題に即した授業改善を目指して —

横浜市立稲荷台小学校
片桐 大樹

1 I校の授業研究の実態と課題

校内授業研究において、研究主題を設定し授業改善を行っていく取組は多くの小学校で行われている。こうした取組の中で課題として挙がることの一つに「研究主題を全教職員で理解・共有しての授業改善が難しい」、ということがある。

横浜市立I小学校（以下、「I校」と称する）は、この課題の解決に取り組みながら授業研究を推進している学校である。しかしながら、横浜市学力・学習状況調査の結果からも、研究内容の「資料活用・振り返り」について、その根本となる研究主題の理解・共有に課題があり、研究主題に即した授業改善につながっていかないことが示唆されている。

また、I校の教員の経験年数構造は1～10年目までの教員が半数以上であり、日常的なOJTを難しいものにしてしている。このこともI校の授業研究の課題解決の困難さの一因として挙げられる。

2 先行研究

このような状況において横浜市教育委員会は「メンターチーム」の導入・実践を推進してきた。メンターチームとは、「複数の先輩教職員が複数の初任者や経験の浅い教職員をメンタリングすることで人材育成を図るシステム」である。このメンターチームの取組から、I校の課題解決の知見を得ることができる。その知見とは、「経験学習モデル」、「ミドルリーダーシップ」、の2つである。

3 研究目的

これらのことから本研究の目的は、I校の校内授業研究の研究主題に即した授業改善のために、「ミドルリーダーによる経験学習モデルを活用した校内研修」の実践と評価を行い、授業改善のための校内研修に効果的な視点を検討することである。

4 課題解決の方法

課題解決の方法は「ミドルリーダーによる経験学習モデルを活用した校内研修」である。「ミドルリーダーによる経験学習モデルを活用した校内研修」とは、ミドル

リーダーがI校の教職員を対象に、校内授業研究の研究主題に即した授業改善を目指して行う校内研修である。

(図1)

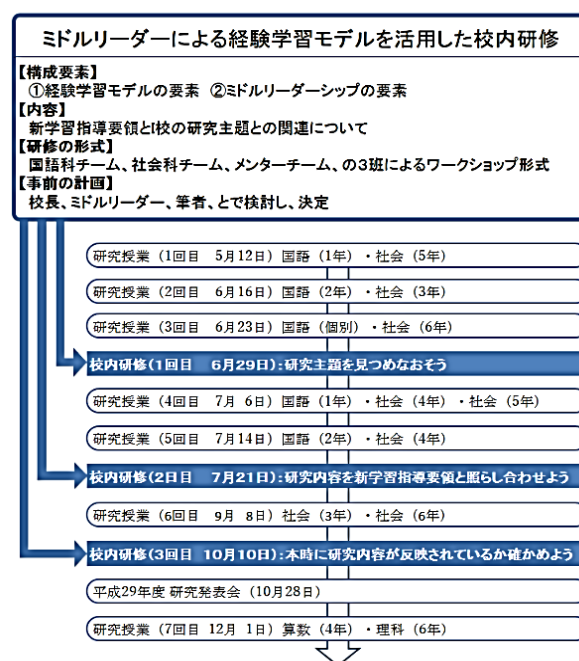


図1 「ミドルリーダーによる経験学習モデルを活用した校内研修」の日程

5 結果と考察

課題解決の方法を通して、I校では校内授業研究の研究主題に即した授業改善がなされたことが示唆された。また、授業改善のための校内研修においては、ミドルリーダーが内省の活動を促したり、ミドルリーダーが中間概念を形成する力を高めたりすることが効果的であると示唆された。

参考文献

- 中原淳 脇本健弘 町支大祐 (2015) 教師の学びを科学するデータから見える若手の育成と熟達のモデル. 北大路書房: 49-156
- 横浜市教育委員会 (2011) 「教師力」向上の鍵—「メンターチーム」が教師を育てる, 学校を変える!. 時事通信社